

宮崎市文化財調査報告書第44集

前田二月田遺跡

2000年3月

宮崎市教育委員会

序

本市は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、古くから発展してきた地域です。穏やかな風土に育まれた貴重な動植物、古代社会の繁栄を物語る古墳群や遺跡の数々、由緒ある神社仏閣やそこに伝わる仏像など、自然のすばらしさと歴史の流れを思い起こさせるすぐれた自然遺産・文化遺産が市内各地にのこされてきました。

一方、最近の社会情勢や生活様式の変化は目を見張るものがあり、本市におきましても宅地造成や道路整備など、様々な開発行為が各地で行われています。このような現代社会におきまして埋蔵文化財行政の重要性は、今後ますます増していくものと思われます。

本書は、ガソリンスタンドの開発に伴って実施されました前山二月田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。前田二月田遺跡周辺は、かつては市北部のどかな田園地帯でしたが、近年急速に都市化が進み近代的な街として発展している地域です。また、周辺には国指定史跡の「蓮ヶ池横穴群」をはじめ、市指定文化財である新名爪八幡宮の「舞楽面陵王」など、歴史的遺産の多い地域でもあります。今回の調査では、古代から中世にかけての貴重な資料を得ることができました。本書が学術研究や郷土の歴史解明の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査に従事された作業員の皆様、ご協力いただきました関係機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成12年3月

宮崎市教育委員会

教育長 内藤泰夫

例　　言

1. 本書はガソリンスタンド建設に伴う、前田二月田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は宮崎市教育委員会が平成11年6月1日から8月6日までの期間実施した。

3. 調査組織

調査主体 宮崎市教育委員会

文化振興課	課長	野間重孝
調査総括	文化財係長	永井淳生
調査事務	主事	竹野隆司
調査員	技師	宇田川美和
整理担当	主査	田村泰彦
	技師	宇田川美和
補助員	嘱託	椎由美子
	嘱託	小川正子
	嘱託	松永光雄
	嘱託	久富なをみ
	嘱託	河野賢太郎

4. 本書の執筆は田村・宇田川が行った。
5. 掲載した図面の実測、製図、図版の作成は田村・宇田川・椎・小川・松永が分担して行った。
6. 現場における写真撮影は宇田川が、遺物写真撮影は河野が行った。
7. 本書の編集は宇田川・久富が行った。
8. 発掘調査により出土した遺物及び調査における図面・写真等は宮崎市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 遺跡の立地と歴史的環境.....	1
第2章 調査の成果.....	7
第1節 調査の概要.....	7
第2節 遺構及び遺物について.....	8
1. 溝状遺構.....	8
2. 溝状遺構出土遺物.....	8
3. 包含層出土遺物.....	8
第3章 まとめ.....	13

挿図目次

第1図 前田二月田遺跡位置図.....	3
第2図 前田二月田遺跡周辺図.....	4
第3図 前田二月田遺跡全体図.....	5
第4図 前田二月田遺跡土層断面図.....	5
第5図 溝状遺構出土遺物.....	8
第6図 包含層出土遺物実測図（1）.....	9
第7図 包含層出土遺物実測図（2）.....	11
第8図 包含層出土遺物実測図（3）.....	12

表目次

第1表 出土土器観察表 1	15
第2表 出土土器観察表 2	16
第3表 出土石器計測表.....	16

図 版 目 次

図版 1	前田二月田遺跡調査区全景（北西から）	17
図版 2	溝状造構内縫模出状況（東から）	17
図版 3	溝状造構完掘状況（東から）	17
図版 4	包含層遺物出土状況 1	18
図版 5	包含層遺物出土状況 2	18
図版 6	前田二月田遺跡調査区北側完掘状況（東から）	18
図版 7	前田二月田遺跡調査区南側完掘状況（東から）	18
図版 8	前田二月田遺跡出土遺物	19

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

前田二月田遺跡はもともと水田として利用されていたが、一般国道10号宮崎北バイパス開通後、周辺の交通量が増加したことからガソリンスタンド建設計画が持ち上がり、平成10年12月7口開発主である株式会社[]より、株式会社[]を通じて、宮崎市教育委員会文化振興課あてに、埋蔵文化財の所在の有無について照会がなされた。

文化振興課では、開発予定地が周知の遺跡である「前田遺跡」と隣接していることから、埋蔵文化財確認のため、開発に先立ち試掘調査が必要であることを関係者に説明し、12月24日試掘調査を行った。試掘調査では、溝状遺構と遺物が確認され、本調査が必要であることが判明した。その後関係者と協議を続けた結果、平成11年5月31日土地所有者である[]との間に埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、本調査を実施することとなった。調査期間は6月1日から8月6日までとした。

第2節 遺跡の立地と歴史的環境

前田二月田遺跡は、宮崎市北部、一般国道10号宮崎北バイパスと、一般国道219号の交差点付近、宮崎市大字新名爪字二月田に所在する。垂水台地から東へ向かって延びる低平な丘陵地の裾部に連なる沖積地である。

前田二月田遺跡の北0.6kmには、縄文時代から弥生時代の土坑群や古墳時代後期～奈良時代の住居址、近世の掘立柱建物が検出された北ヶ迫遺跡がある。また、南西2.2kmの標高約10mの微高地上には黒太郎遺跡が所在し、溝状遺構や周溝状遺構のほか、多量の弥生時代後期の土器が出土している。さらに南西の下北方丘陵には、集落に二重の濠を巡らせた環濠集落である下郷遺跡が所在し、魚や鳥を描いた絵画土器が出土している。また下郷遺跡の周辺では、竹製の笠や多量の木製品、炭化米が付着した土器が出土した垣下遺跡、本調査が行われておらず詳細は不明だが、縄文時代後期と弥生時代中期の土器片が表面採集された宮崎大学茶園遺跡が存在する。また、前田二月田遺跡の南3kmには、土坑から弥生時代後期の壺や甕・器台、溝状遺構から平安時代前期の上師器の坏が出土した赤江町遺跡が存在する。

古墳時代になると、一般国道10号に分断された東側の丘陵には、これまでに82基の横穴墓が確認されている蓮ヶ池横穴群が作られる。横穴の群集墳としては国内の南限であり、保存状態も良好なことから、昭和46年に国指定史跡となり、現在は史跡公園として整備されている。また、前方後円墳の住吉1号墳をはじめとする住吉村古墳がある。前田二月田遺跡から南西約3.1kmには池内横穴があるが、30基のうち1基が現存するのみである。さらに南西3.7kmの下北方丘陵上に下北方古墳群が存在する。7号墳（円墳）の裾部で発見された下北方地下式横穴第5号では、金製垂飾付耳飾をはじめ、鏡や装身具、武具や馬具などの豊富な副葬品が出土している。

また、前田二月田遺跡に隣接する前田遺跡は、一般国道10号宮崎北バイパスの建設に伴い、宮崎県が調査したもので、平安時代の水田址や大足・木簡などの木製品や墨書き土器が出土している。

平安時代末期になると、前田二月田遺跡一帯は「豊前宇佐領新名爪別符」として文献に姿をあらわす。「建久岡田帳」によれば、新名爪別符の弁済使として土持太郎宣綱の名が見られる。また、蓮ヶ池横穴群に隣接する形で残る丹後城は、土持氏の家臣である三須丹後守の居城と伝えられることから、この地域と土持氏との密接な関係が窺える。さらに前田二月田遺跡から西へ0.2kmにある新名爪八幡宮には、室町時代作の市指定文化財「舞楽面陵王」がある。この陵王の面は九州地方では福岡県觀音寺・大分県宇佐八幡宮とこの新名爪八幡宮にのみ存在することから、当地と宇佐八幡宮との関係の深さを窺うことができる。

中世以降になると、前田二月田遺跡から北へ2.5kmのところに、新名爪川河川改修に伴って調査され、中世の水田畦畔が検出された保木下遺跡が存在する。また、東へ約2.8kmのところには宮崎城が存在する。宮崎城は南北朝時代に南朝方の団師六郎入道慈円が立て築もり、北朝方の土持宣宗に攻められて敗死した記録が残る。その後土持氏が衰退すると、15世紀半ばには伊東氏の直轄となり、佐土原・都於郡とともに伊東四十八城の一つとして、伊東氏の全盛期を支えた。伊東氏没落後は島津氏が宮崎城に入り、天正15（1587）年の豊臣秀吉の九州平定では延岡藩領として高橋氏、高橋氏の改易後は有馬氏と、動乱の中にあってその主を変え、元和元（1615）年の一国一城令によって廃城となった。

〈参考文献〉

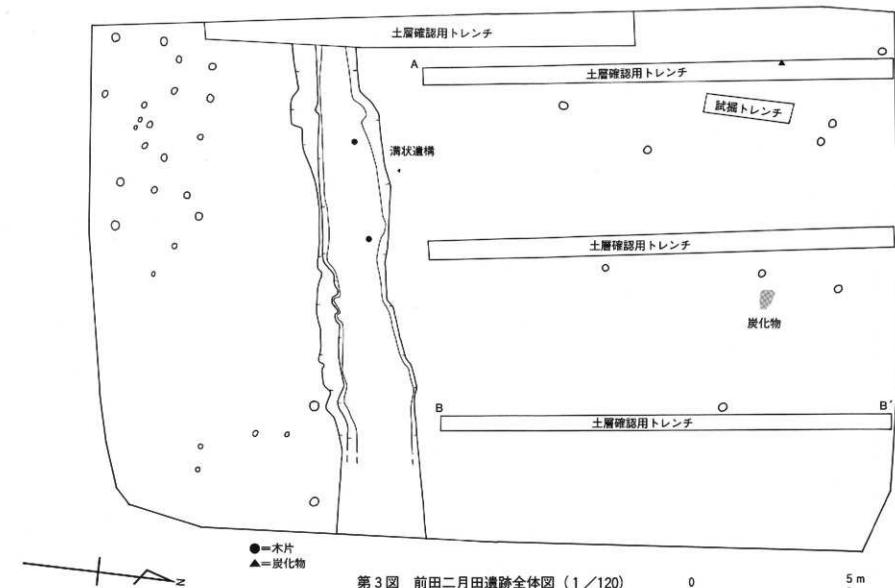
- 『下北方地下式横穴墓第5号』 宮崎市教育委員会 1977
- 児玉幸多監修『日本城郭大系16～大分・宮崎・愛媛～』新人物往来社 1980
- 『保木下遺跡』 宮崎県教育委員会 1986
- 『垣下遺跡』 宮崎市教育委員会 1991
- 『宮崎県史 資料編考古1・2』 宮崎県史刊行会 1993
- 『前田遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター 1998
- 『下郷遺跡』 宮崎市教育委員会 1999
- 『宮崎市の文化財』 宮崎市教育委員会 1997
- 『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』 宮崎県教育委員会 1999



第1図 前田二月田遺跡位置図 (1/50,000)

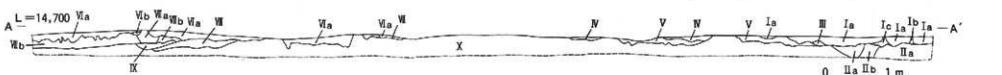


第2図 前田二月田遺跡周辺図 (1/25,000)



第3図 前田二月田遺跡全体図 (1/120)

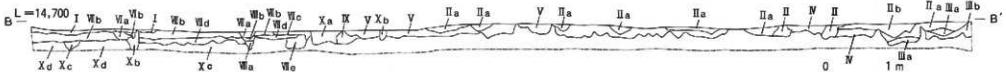
0 5m



I a 明黄茶褐色土層 鉄分を筋状に含む
I b 灰褐色土層
I c 灰茶褐色土層 I a層よりも粘土性が強い
II a 青灰色土層 I 層よりも粘土性が強くなる
II b 灰色土層 II aの層よりもしまりが強い

III 黄褐色土層
IV 青灰色土層
V 灰褐色土層
VI 黑褐色土層
VII a 青灰色土層 VII a層より砂質が強い
VII b 暗灰色土層
IX 暗青灰色土層
X 青色土層 砂質が強い

0 1m



I 灰褐色土層 砂質が強い 筋状に鉄分を含む
II a 灰茶褐色土層 砂質が強い
II b 灰茶褐色土層 II a層に比べ、黄色が強い
III a 青綠色土層
III b 青茶褐色土層
IV 黄茶褐色土層 砂質が強い
V 黄灰褐色土層

VII a 暗灰褐色土層
VII b 暗灰褐色土層
VII c 青黑色土層
VII d 青黑色土層
VII e 青灰色土層 VII a層より砂質が強い
VII f 明青灰色土層 VII a層より砂質が強い
VII g 青灰色土層 VII a層より砂質が強い
VII h 青灰色土層 VII a層よりよりしまりが強く粘性が強い
VII i 青灰色土層 VII a層よりよりしまりが強く粘性が強い
IX a 青灰色土層 砂を少量含む
X a 灰色土層 砂質が強い
X b 黑褐色土層
X c 暗灰色土層
X d 灰色土層

0 1m

第4図 前田二月田遺跡土層断面図 (1/60)

第2章 調査の成果

第1節 調査の概要

前田二月田遺跡は、もともと水田であった上、開発対象地域は北側を市道、西側を民家、東側を一般国道10号宮崎北バイパスに挟まれた三角地帯で、水はけが悪く、試掘調査当初から湧水に悩まされ、更に本調査中は天候不順な日が多く、調査終了まで水に悩まされた。また、表土より下は粘性の強い土であったため、晴天が続くと土が硬化してしまうという悪条件が重なり、調査は思うように進まなかった。

平成10年12月24日に実施した試掘調査の結果、開発対象地域の南半分では、遺構及び遺物は全く確認されず、40cm程度下げたところで青色粘土層に当たった為、埋蔵文化財はないものと判断した。更に北半分のうち、一般国道10号宮崎北バイパスに近い北東部にあけたトレンチでも、遺物は4～5点程度しか確認されず、また遺構のようなものも確認されなかつたため、調査を行わないこととした。しかし北西部のトレンチにおいて、多量の遺物および溝状遺構と思われるものが確認されたため、開発対象面積1597.62m²のうち、北西部の380.93m²について調査を行うこととなった。

調査の結果、調査区の南において溝状遺構を1条検出したものの、試掘調査で見られた溝状遺構は確認されなかつた。また、北側において多量の土器が確認されたが、遺物に伴う遺構は確認されず、包含層の遺物として扱うこととした。同じく、調査区北西角と北側ほぼ中央で、炭化物を確認したものの、住居址や土坑といった、当該地における生活を匂わすようなものも確認されなかつた。また、ピットも36基確認されたが、規則性は全く見られなかつた。

本遺跡の基本層序は、I層—表土（現代の耕作土）・II層—白色スコリア（文明のボラ）を含む暗灰色粘土層・III層—灰白色粘土層・IV層—黄褐色粘土層・V層—黄白色粘土層・VI層—青灰色粘土層である。

第2節 遺構及び遺物について

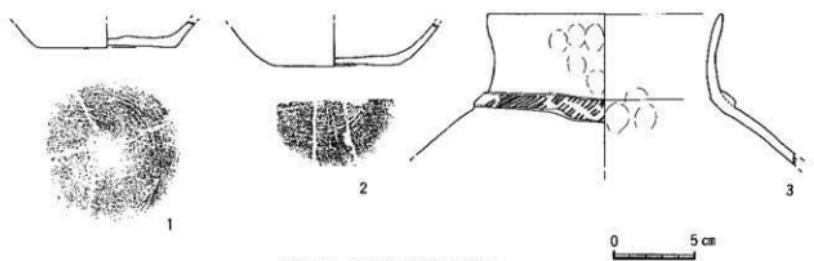
1. 溝状遺構（第3図）

調査区南寄りで検出された。東西方に伸びる溝で、最大幅70cm、深さ39.6cmを測る。南側にはゆるい傾斜の変化点が見られるが、北側では確認されなかった。

遺物は少なく、ほとんどが底面から10~20cm程度浮いた状態で出土した。そのほかにも、長さ約25cm程度の流木と思われる木片が2点検出された。また、床面から20~40cm浮いた状態で砾が多数検出されたが、配石遺構と呼ぶには量も少ないため、流れ込んだものと思われる。

2. 溝状遺構出土遺物（第5図）

1・2は土師器の壺である。風化しているが、ともに糸切り底だと思われる。3は壺で、頸部に突帯を巡らす。右上がりの刻目が見られる。



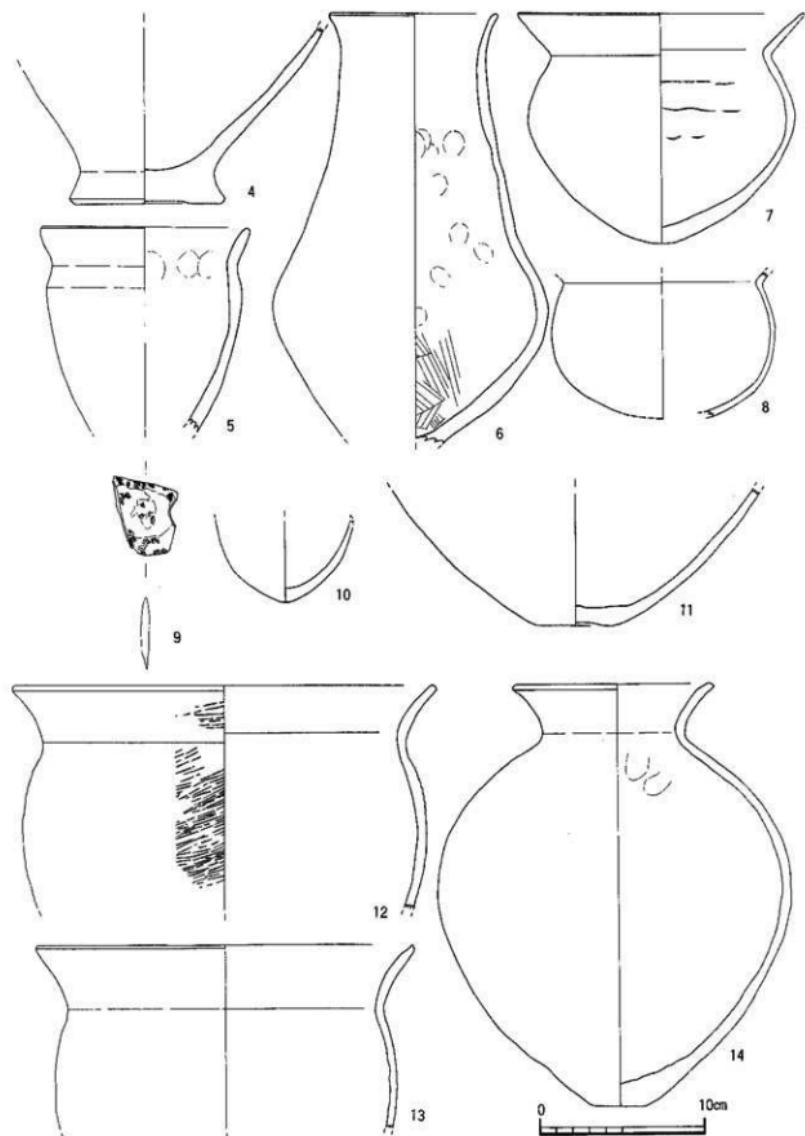
第5図 溝状遺構出土遺物

3. 包含層出土の遺物（第6~8図）

これらの遺物は、調査区北側でまとまりを持って出土した。しかし、大量の遺物に伴う遺構は確認されなかったため、土層確認用のトレーナーを3本入れ、出土遺物を層位で分けて取り上げた。

4~9は灰茶褐色土の包含層1から出土したものである（第6図）。4・5は壺で、4はわずかに上げ底を呈する。5は最大径を口縁部に持つ。底部から緩く外反して立ち上がり、胴部上位で少し膨らんだ後、口縁部で緩く「く」の字に外反する。6・7は壺である。6は長頸壺で、胴部が緩く「く」の字に屈曲し、頭部で強く締まることなくゆるやかに口縁部へと立ち上がり、口縁部が緩く外反する。7は広口壺で、最大径を口縁部に持つ、丸底を呈する。胴部中位のやや上で緩く膨らみ、口縁部は「く」の字に強く外反する。8は鉢で、丸底を呈し、胴部は大きく張り、口縁部は「く」の字に強く外反する。最大径は胴部中位にあるものと思われる。9は砂岩製の石包丁である。両側縁を抉るタイプである。

10~18は黄茶褐色土の包含層2から出土したものである（第6・7図）。10~13は壺である。10は尖底に近い。11はやや上げ底を呈する。12は最大径を口縁部に持つ、口縁部で緩く「く」の字に外反する。口縁部の一部と胴部のほぼ全体にタタキが残る。13は最大径を口縁部



第6図 包含層出土遺物実測図(1)

にもち、口縁部は「く」の字に外反する。胴部はあまり張らない。14は壺で、平底を呈する。最大径は胴部中位にあり、やや大きく張る。口縁部は「く」の字に外反する。15・16は高壺である。15は脚部に4つの透かしが現存し、壺部に向かってやや膨らみを持って立ち上がる。17は蓋である。18は頁岩製の砥石である。

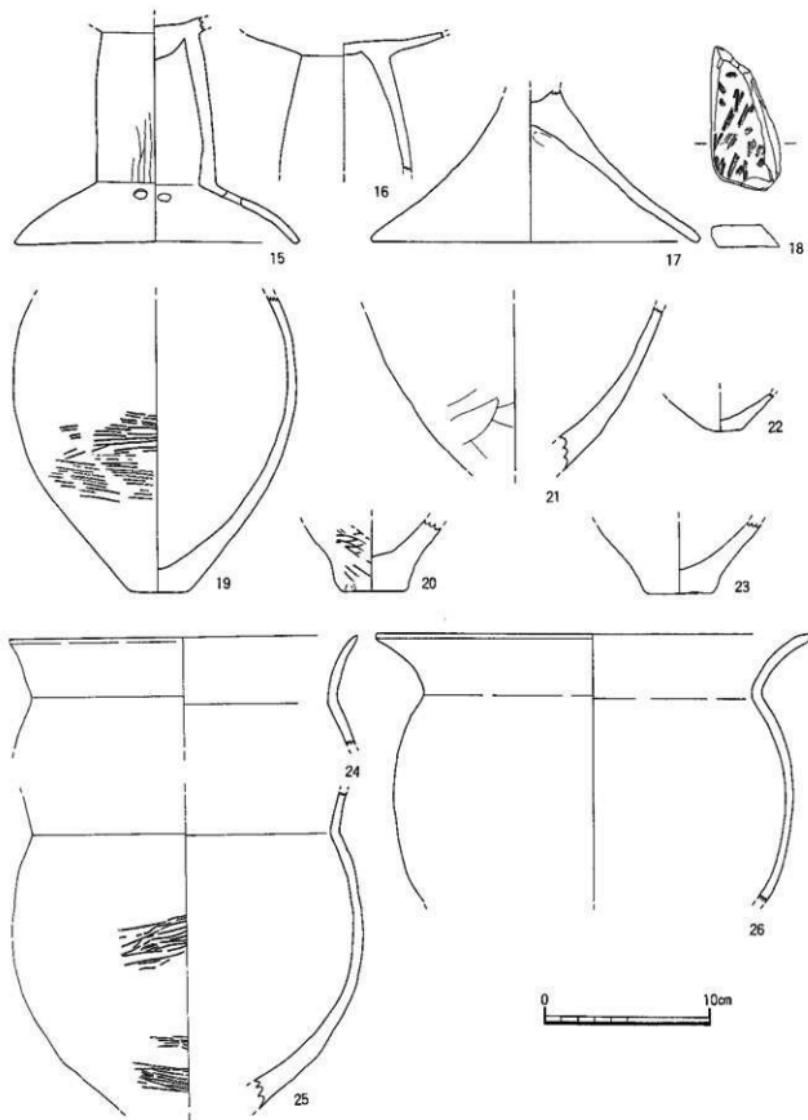
19~21は灰黄茶褐色土の包含層3から出土したものである(第7図)。19~21は壺である。19・20は充実した底部を持ち、19は膨らみを持ちながら口縁部へと至る。胴部下位にタタキが残る。20は胴部下位から底部にかけてタタキが残る。

22~26は青色粘土の包含層4から出土したものである(第7図)。すべて壺である。22・23は充実した底部を呈する。24・25は風化が著しく、接合が困難であったため、接点はみられないが同一個体であると思われる。最大径は胴部中位に持ち、口縁部は緩やかに屈曲する。胴部中位と下位にタタキが残る。26は最大径を口縁部に持ち、口縁部は「く」の字に外反する。

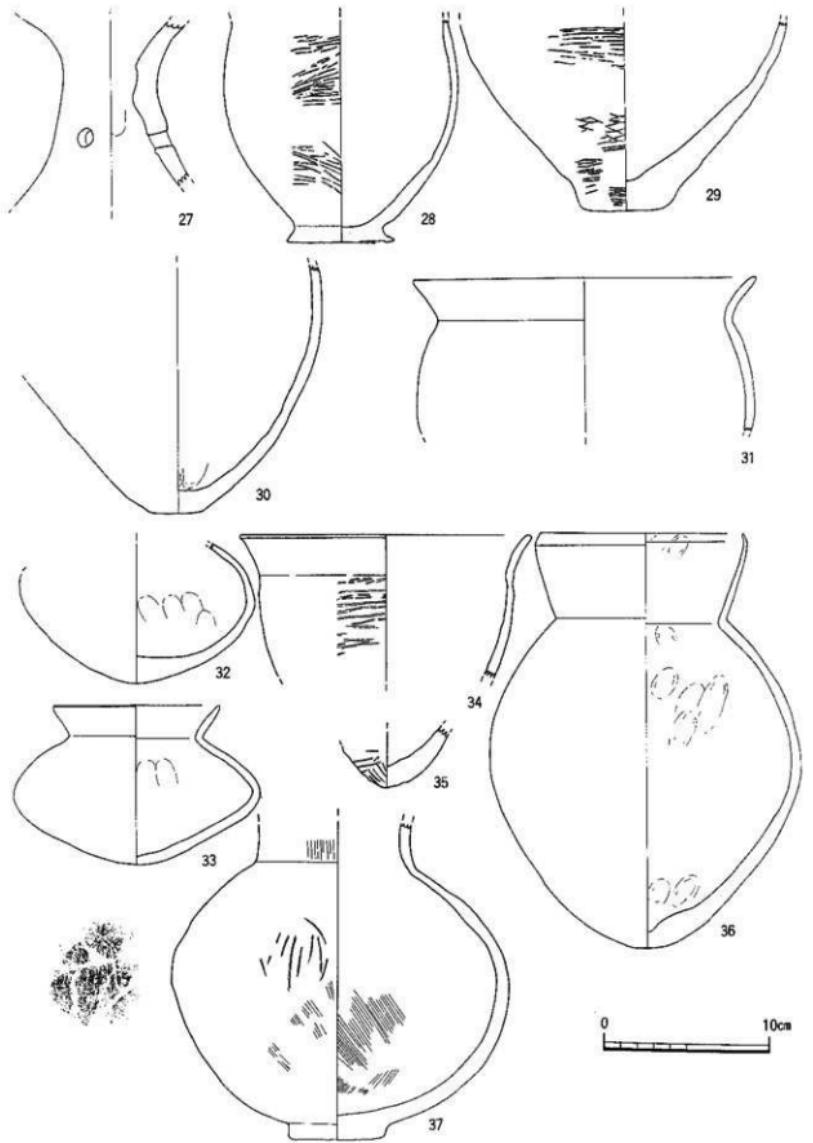
27は青灰色粘土の包含層5から出土したものである(第8図)。器台で、透かしは3個現存する。裾部から緩やかな弧を描いて立ち上がり、直線部分をほとんど持たずに口縁部へ、緩いカーブを描いて外反する。

28~33は灰色粘土の包含層6から出土したものである(第8図)。28~31は壺である。28・30は平底を呈する。28は胴部が丸く張る。胴部中位と下位にタタキが残る。29は胴部中位に向かって緩やかに開く。胴部中位下から底部にタタキが残る。30は胴部が卵形を呈する。31は最大径が口縁部にあり、胴部はあまり張らない。32・33は壺である。32は尖底に近い丸底を呈し、胴部は丸い倒卵形である。33は丸底で、32に比べ胴部は強く屈曲し、口縁部も「く」の字に強く外反する。

34~37は砂質の強い青色粘土の包含層7から出土したものである(第8図)。34・35は壺である。風化が著しく接点がないが、同一個体と思われる。最大径を口縁部に持つ。口縁部は緩く外反し、頸部直下でわずかに膨らんで、尖底に近い丸底の底部に至る。胴部上位と底部にタタキが残る。36・37は最大径を胴部中位にもつ壺である。36は充実した底部を持ち、口縁部は「く」の字に外反した後、わずかに内傾する。37は平底を呈し、頸部から口縁部に向かって垂直に立ち上がる。胴部中位の、最も張った部分に線刻を持つ。当遺跡で唯一の線刻土器である。



第7図 包含層出土遺物実測図(2)



第8図 包含層出土遺物実測図(3)

第3章 まとめ

前田二月田遺跡は調査の結果、溝状遺構1条と遺物包含層が確認されたのみであった。本調査を通じて得られた成果を、簡単に述べたい。

まず、溝状遺構については、底部糸切りの土師器坏（1・2）が出土していることから、14世紀代という年代が与えられる。溝状遺構については、図示できなかった遺物がほかに8点あるが、いずれも1・2と同時期かそれよりも時代が下るものであり、3の遺物だけが古墳時代の土師器である。これは底面よりもかなり浮いた状態で検出されたため、流れ込みだと考えられる。

溝状遺構からは礫が検出されたが、配石遺構と呼ぶには礫の数も少なく、まとまりも見られなかつたため、流れ込みであると判断した。また木片が2点検出されているが、加工痕は見られず、これも流れ込んだものと思われる。

本報告書に掲載した遺物37点のうち、溝状遺構出土の3点を除く34点は、調査区北側において、明確な遺構を伴うことなく出土した。そのため、すべて包含層の遺物として取り扱うこととし、包含層を1～8層に分けた。各包含層は、包含層1－灰茶褐色土層・包含層2－灰茶褐色土層・包含層3－灰黄茶褐色土層・包含層4－青色粘土層・包含層5－青灰色粘土層・包含層6－灰色粘土層・包含層7－砂質の強い青色粘土層・包含層8－暗褐色粘土層となっており、そのうち包含層8については遺物が少なく、図示できるものはなかった為割愛した。

遺物包含層は、

①調査区西横の土層確認トレンチ（度重なる悪天候と、弱い地盤のため崩落が激しく、土層断面図を残すことは不可能であった）における上層を確認したところ、溝状遺構の北0.8mのところで、VI層が盛り上がるような形でIV層（溝状遺構検出層）を切っている。

②試掘調査において、開発対象地南側を試掘した際、南側では基本層序のII～V層の堆積が非常に薄く、表土から約40cm下において、VI層が確認された。

という点から、現在は同一レベルに整地されているものの、もともとは南側よりも北側の方が低かったものと思われる。

また、包含層は粘土化が進んでおり、堆積状況も水平もしくはレンズ状といった状態ではないことから、溝状遺構が作られる時期以前は、洪水等の水害を何度も受けているか、もともとは巨大な流路もしくは溜池といった、常に水を湛えている状況だったことが考えられる。従って、人が生活できる状況であったことは考えにくく、遺物も流れ込みである可能性が高い。

洪水等の水害については、本遺跡の北0.25kmを流れる新名爪川が考えられる。新名爪川は昭和61年頃に小規模河川改修工事が行われており、その際に調査された保木下遺跡をはじめ、現在の新名爪川沿いで、時期不詳の土師器や弥生土器が表面採集されている。また、工事の際の排水の中から弥生土器が採集されていることから、保木下遺跡で検出された中世の水田以前は、新名爪川の氾濫原であった可能性がある。また新名爪川は従来川幅が狭く、大きく蛇行して流れていたこと、河川改修以前、昭和初期まで一般国道10号と一般国道219号の分岐点の北

あたりを流れていたという記録もある（註1）。さらに近隣の住民の方々の話によると、つい最近まで大雨の後は新名爪川が氾濫し、一般国道10号と一般国道219号の分岐点（本遺跡のあるところ）は水浸しになり、市内で真っ先に通行止めになった、という話を聞くことができた。

また、本遺跡の北約0.6kmに所在する北ヶ迫遺跡（註2）において、標高39～41mのところで弥生時代前期～中期初頭の土坑と、6世紀末～7世紀初頭の住居址が検出されている。本遺跡が標高約14.7mに立地していることから、この地域の居住域は丘陵上といった、現地形においてもかなり高い所であったと思われる。さらに、この地域では「長迫」「谷迫」といった、「迫」がつく地名が多いことからも、この地域の原風景が推測できよう。

しかし、遺物の量も多く、ほぼ完形で出土しているという状況と、標高14.58～14.68mというわずか10cmの間から、ほとんどの遺物が出土しているということを鑑みると、単なる流れ込みではなく、投棄の可能性も捨てられない。

遠い昔、人間は自然の前に無力であった。前田二月田遺跡周辺にあった集落の人々も、大雨による洪水や氾濫の前に、ただ畏れをなすことしかできず、神に祈ることしかできなかつたに違いない。ところが現在は、河川は改修され、昔のように道路が水没することもなくなった。もとは水田であったところをひっきりなしに車が通り、人が住めなかつた前田二月田遺跡周辺には、今や民家やスーパー、ガソリンスタンドが並ぶ。ただ祈ることしかできなかつた人々には、信じられない光景だろう。そして、今のように自然の流れを変えられる技術力を、うらやましく思うのかも知れない。しかし、彼らが心に抱く風景は、もうどこにもない。

人が生活を営む為には、過去を排除しなくてはいけないこともある。しかし、「温故知新」の旨葉が示すように、過去がこれからの発展に寄与することも少なくないのである。今回の調査が、この地域の「古きを温める」ことに一役買えれば、光榮である。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた地権者の████████、開発主の株式会社████████をはじめとする関係機関の方々、悪条件のもと、懸命に作業してくださった作業員の皆様、調査中及び本書作成中に様々なご助言をくださった方々に、心より感謝申し上げます。

（註1）住吉郷土史編集委員会編　『住吉郷土誌』　1993

（註2）平成11年度報告書刊行予定

【参考文献】

- 宮崎県埋蔵文化財センター　『前田遺跡』　1998
- 宮崎県埋蔵文化財センター　『市位遺跡』　1998
- 宮崎県埋蔵文化財センター　『保木下遺跡』　1986
- 工楽善通他編　『日本土器事典』　雄山閣　1996
- 宮崎市教育委員会　『下郷遺跡』　1999
- 宮崎市教育委員会　『中岡遺跡』　1987

第1表 出土土器観察表1

遺物 番号	出土位置	種類 容積	法 品 (cm)		調 整		色 調		胎 上	備 考	
			口径	高さ	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
1	溝状遺構	上部器 壺			8.8	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	淡黄橙	細砂粒を含む	赤切り底?
2	*	下部器 壺			7.5	風化著しい	風化著しい	灰白	灰白	細砂粒を含む	赤切り底?
3	*	上部器 壺	14.4			ナデ ユビオサエ	ナデ ユビオサエ	にぶい橙	にぶい橙	砂粒、細砂粒を含む	刻印突帯
4	包含層1	弥生土器 壺			8.9	風化著しい	風化著しい	橙	黒、明褐色	砂粒、雲母を含む	
5	*	弥生土器 壺	12.5			風化著しい	ユビオサエ	にぶい橙	灰、橙	砂粒を多く含む	
6	*	弥生土器 壺	10.0			風化著しい	ユビオサエ ハケ	淡黄色	黒	細砂粒を含む	
7	*	弥生土器 壺	17.4	14.0		風化著しい	丁寧なナデ	灰白	灰黃	礫を多く含む	
8	*	下部器 壺				風化著しい	丁寧なナデ	灰白	橙	砂礫をかなり多く含む	スス付着
9	*	(石包丁)									(石器計測表 参照)
10	包含層2	上部器 壺				風化著しい	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細砂粒を多く含む	
11	*	弥生土器 壺			4.8	風化著しい	風化著しい	にぶい褐	にぶい黄橙	砂粒、細砂粒を多く含む	
12	*	下部器 壺	25.5			タタキ	風化著しい	にぶい黄褐	赤橙	砂粒を多く含む	
13	*	上部器 壺	22.8			風化著しい	風化著しい	橙	赤褐	砂粒を多く含む	
14	*	弥生土器 壺	11.7	25.8	8.1	ナデ	ユビオサエ ナデ	明褐色	淡黄橙	砂粒を多く含む	スス付着
15	*	上部器 高壺			17.1	風化著しい	風化著しい	橙	橙	砂粒を含む	透し孔4個 外面上に工具痕
16	*	上部器 高壺				ミガキ?	工具痕	にぶい橙	灰白	細砂粒を含む	風化著しい
17	*	弥生土器 壺	19.8			ナデ?	ユビオサエ ナデ?	橙	にぶい赤褐	砂礫を多く含む	風化著しい
18	*	(砥石)									(石器計測表 参照)
19	包含層3	弥生土器 壺			3.4	タタキ	風化著しい	赤、橙	明褐	砂粒、細砂粒を多く含む	外面上も風化著しい
20	*	弥生土器 壺			3.7	タタキ ユビオサエ	ナデ	にぶい黄褐	灰白	砂粒を含む	
21	*	弥生土器 壺				工具痕	ナデ?	淡黄橙	褐灰	砂粒をかなり多く含む	風化著しい
22	包含層4	弥生土器 壺			2.2	風化著しい	風化著しい	灰黄褐	黑	砂粒を多く含む	
23	*	弥生土器 壺			3.9	風化著しい	風化著しい	にぶい橙	にぶい橙	砂粒を多く含む	

第2表 出土土器観察表

遺物 番号	出土遺構	種類 器物	法 量 (cm)		調 整		色 調		胎 土	備 考	
			口径	器高	底径	外面	内面	外面			
24	*	弥生土器 壺	21.0			工具痕	ナデ	淡黄	淡黄、黒	砂粒を含む	風化著しい 25と同一個体か
25	*	弥生土器 壺				タタキ	風化著しい	淡黄	黄灰	砂粒を含む	24と同一個体か
26	*	弥生土器 壺	26.3			風化著しい	風化著しい	にぶい緑	明褐色	砂礫、砂粒等を多く含む	
27	包含層 5	弥生土器 器台				風化著しい	風化著しい	淡黄橙	淡黄橙	砂礫、砂粒を含む	透し孔3個
28	包含層 6	上師器？ 壺		6.5	タタキ	工具痕	褐灰	にぶい緑	砂粒、細砂粒を多く含む	風化著しい	
29	*	弥生土器 壺		5.5	タタキ	ナデ	淡黄橙	灰黄褐	砂粒を含む		
30	*	壺		3.0	ハケ後ナデ？ ユビオサエ ハケ後ナデ？		黒褐	にぶい緑	砂粒、細砂粒を多く含む	風化著しい	
31	*	弥生土器 壺	20.9			ナデ？	ナデ	明褐色	黄灰	砂礫、砂粒を多く含む	
32	*	弥生土器 壺				風化著しい	ユビオサエ 工具痕	にぶい黄緑	にぶい黄緑	細砂粒を多く含む	内面も風化著しい
33	*	弥生土器 壺	10.0	9.8		風化著しい	ユビオサエ	灰黄	灰黄	砂粒、細砂粒を多く含む	
34	包含層 7	上師器 壺	17.8			タタキ	ナデ	灰	にぶい緑	砂粒を多く含む	33と同一個体か
35	*	上師器 壺				タタキ	ナデ	灰	にぶい緑	砂粒を多く含む	34と同一個体か
36	*	弥生土器 壺	12.3	25.5	1.7	丁寧なナデ ユビオサエ	丁寧なナデ ユビオサエ	淡黄	にぶい赤緑	砂礫を少し含む	
37	*	弥生土器 壺			5.9	ハケ後ナデ？ 風化著しい	ハケ	にぶい黄緑	褐灰	砂粒、細砂粒を含む	剥剝

第3表 出土石器計測表

遺物 番号	出土遺構	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
9	包含層 1	石包丁	細粒砂岩	(3.9)	(1.8)	(0.5)	15	
18	包含層 2	砥石	頁岩	8.9	4.3	1.4	75	

図版

此一卷中所收之詩，多為近人所不遺。其間有數首，尤為人所重。蓋其詩風清雅，韻律流暢，讀來令人如沐清風。其詩作之題材，廣泛而深入，既有對社會現象的深刻洞察，又有對人生哲理的深邃思考。其詩作之情感，真摯而深沉，既有對親友的真摯情意，又有對家國的真摯愛護。其詩作之藝術，獨創而高超，既有對傳統詩歌的繼承，又有對新詩的開拓。其詩作之影響，廣泛而深远，既有對當時文壇的影響，又有對後世文壇的影響。其詩作之地位，顯著而重要，既有對中國文學的貢獻，又有對世界文學的貢獻。



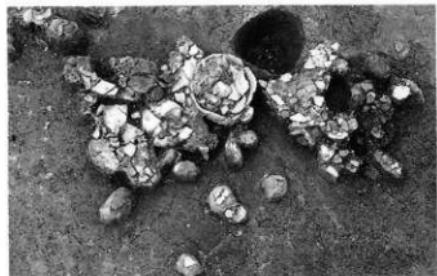
図版1
前田二月田遺跡調査区全景（北西から）



図版2
溝状遺構内疊検出状況（東から）



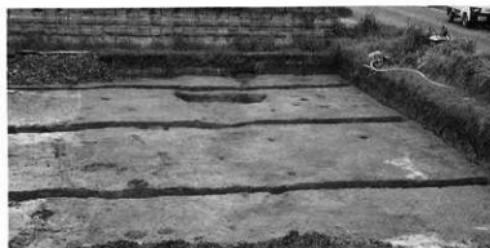
図版3 溝状遺構完掘状況（東から）



図版 4 包含層遺物出土状況 1



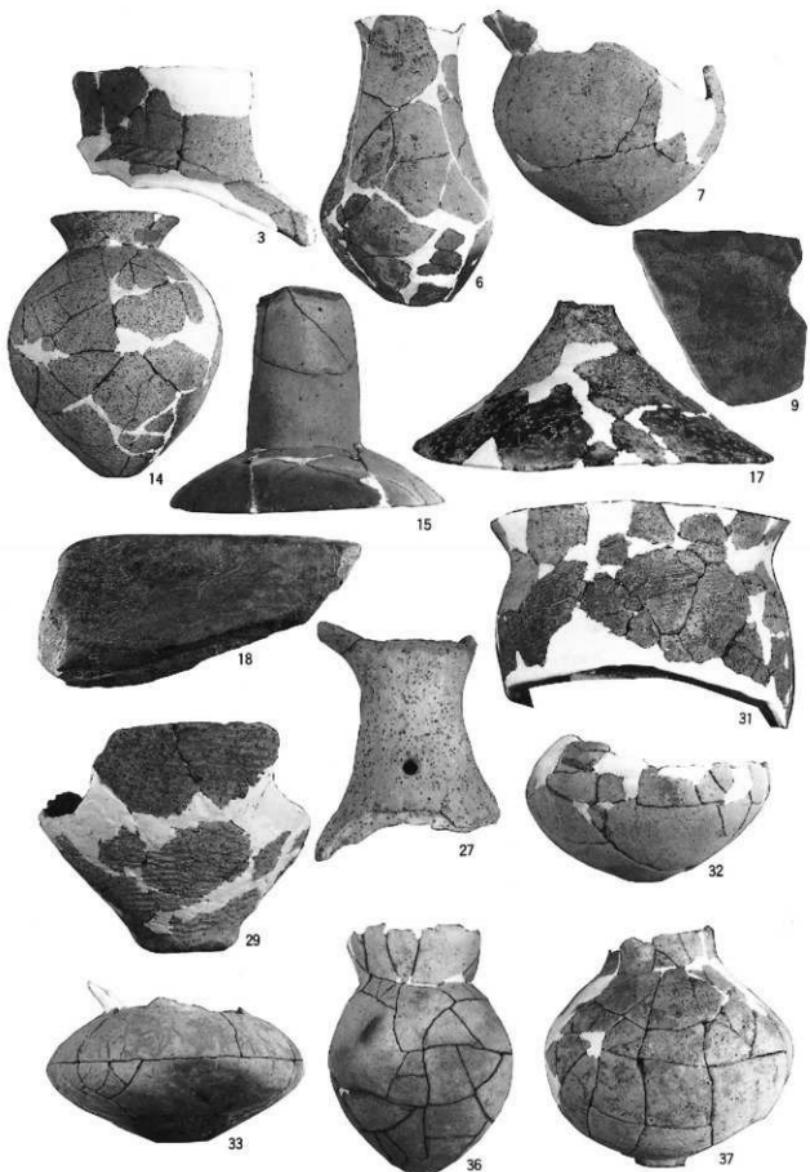
図版 5 包含層遺物出土状況 2



図版 6
前田二月田遺跡調査区北側完掘状況（東から）



図版 7
前田二月田遺跡調査区南側完掘状況（東から）



図版 8 前田二月田遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	まえだにがつだいせき							
書名	前田二月田遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第44集							
編著者名	宇田川 美和							
編集機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目14番20号 TEL 0985-25-2111㈹							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在 地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえだにがつだ 前田二月田 遺跡	みやざきけんみやざきし 宮崎県宮崎市 かわあどじいとづめあそにがつだ 大字新名爪字二月田	45201		31° 58' 10"	131° 26' 30"	19990601 19990806	380.93	ガソリン スタンド 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
前田二月田 遺跡	散布地	中世	溝状遺構	土師器				
		弥生-古墳		弥生土器、土師器 石包丁、砥石	遺構は検出されず 遺物は全て包含層 からの出土である			

前田二月田遺跡

埋蔵文化財発掘調査報告書

2000年3月

発行 宮崎市教育委員会